

WEB SITE.

ホームページのご案内

<http://www.mimaki.co.jp>

当社は積極的な情報開示を行っております。ホームページも是非ご覧ください。

Top Page

Click!

IR Page



ホームページからご覧いただける当社IR活動の取組み

- 社長メッセージ・経営方針・業績・財務情報
- IRイベントのご紹介
- IR資料室
- 株主様向けFAQ

IRに関するお問い合わせ、ご要望は下記までお願いいたします。

株式会社ミマキエンジニアリング IR・広報部
メールアドレス:mimaki-ir@mimaki.jp



株主の皆様のお声を聞かせください

株主様向けアンケート

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 6638

いいかぶ 検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

● アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

Business Report 2008

2008年3月期 第33期報告書 2007.4.1-2008.3.31



株式会社 ミマキエンジニアリング

証券コード:6638



JV33 Series
JV33-130 / JV33-160

さらに速く、美しく。
待望のJV3後継機。
ワイドフォーマット
インクジェットプリンタ。



JV5 Series
JV5-320S

国内最大級3.25m幅を
高速・高画質でプリント。
グランドフォーマット
インクジェットプリンタ。



JF-1631

フラットベッドの特性を
最大限に発揮。
本生産機として
十二分に活躍する性能と
機能を凝縮。



CF3 Series
CF3-1631 / CF3-1610

看板デザインが変わる。
複雑な形状の屋外サインも
スムーズに輪郭カット。



インクジェットと
カッティング技術を柱として、
オンデマンド生産の
可能性を追求する、
市場志向の開発型企業を
目指しています。

01 To Our Shareholders

株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第33期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)が終了いたしましたので、事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当期におきまして、当社グループは“守りを固める”をスローガンに掲げ、お客様に高品質な製品とサービスを提供しつづけるために、安全管理(Safety)、品質管理(Quality)、特許管理(Patent)に重点を置いた社内管理体制の整備を推進いたしました。また、新製品の発売につきましては、サイングラフィックス市場向けにおいては主力のJV3の後継機JV33シリーズ、国内最大級の広幅を誇るJV5-320Sの発売を開始し、インダストリアルプロダクト市場向けにおいては、大判で硬い素材をカットする新カッティングプロッタCF3シリーズや、自動搬送装置付の産業用フラットベッドUV硬化インクジェットプリンタIPFシリーズの発売開始を発表いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は282億35百万円(前連結会計年度比21.0%増)、営業利益は19億59百万円(同69.1%増)、経常利益は17億10百万円(同31.0%増)、当期純利益は9億84百万円(同27.7%増)となり過去最高の業績を確保いたしました。

なお、配当につきましては、期初の計画どおり期末配当を2,000円とし、中間配当の2,000円と合わせて年間では4,000円とさせていただきますので、ご査収くださいますようお願い申し上げます。株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社ミマキエンジニアリング
代表取締役社長

池田 明

経営ビジョン

- 1 独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「開発型企業」を目指します。
- 2 顧客に満足いただける製品を素早く提供する、小回りの利いた会社を目指します。
- 3 市場に常に「新しさと違い」を提供するイノベーターを目指します。
- 4 各人が持っている個性・能力を一杯発揮できる企業風土を目指します。



株式上場から1年。 着実な成長を背景に、産業界の要請に応える 「オンデマンド生産」を提案。 世界を舞台に“1000億円企業”を目指す。

トップが語る、さらなる飛躍へ向けたミマキの経営ビジョン

第33期を振り返って

躍進した欧州IP市場を中心に 主力インクジェットプリンタが健闘。

当期の業績を振り返りますと、売上高ベースで約131%の成長を記録したIP（インダストリアルプロダクト）市場向けを筆頭に、SG（サイングラフィックス）市場向け、TA（テキスタイルアパレル）市場向けもほぼ堅調に推移し、おかげさまで前期比約21%の売上高アップを達成することができました。

この成長を牽引したIP市場で健闘したのが、前期後半に市場投入した大型フラットベッドUV（紫外線）硬化インクジェットプリンタ「JF-1631」です。大判素材や硬質素材へのダイレクトプリントを実現した「JFシリーズ」は、期首から順調に販売を伸ばし、IP市場向け売上高は約50億円を記録しました。

一方、当社の第1の柱であるSG市場では、サブプライムローン問題に端を発する米国の不況のあおりを受けながらも、新型インクジェットプリンタ「JV33シリーズ」のセールスが好調に推移し、SG市場向け売

上高は約9%の成長を確保できました。「JV33シリーズ」はインクジェット市場の革命機と評されるロングセラー機「JV3シリーズ」の後継機ですが、今期は新機種へのリプレースがスムーズに進みました。

また、TA市場では新製品の市場投入はなかったものの、昨今、アパレル・繊維業界においても加速するデジタル化を背景に、Tシャツプリント用製品などがコンスタントに売れ続けました。

売上の約7割が海外という構成は変わりませんが、地域別に見ますと、当期特に成長したのは欧州市場です。元来強かったイタリアのほか、当期はスペイン、フランス、東欧諸国などが成長し、欧州全体で約41%の成長を達成しています。また、その他の地域では、国内が約14%、アジアが約2%、北米が前述の通り不況の影響を受けて約3%の成長という結果となりました。

なお、米国の不況の影響が顕在化しつつあった当期第4四半期、当社は敢えて新株発行増資を実施しました。厳しい状況下での決断でしたが、これにより自己資本比

率が30%台に上がり、この増資資金を加沢工場の増築資金等に充当するなどして将来の基盤固めを行ったことは、結果的には正しい選択だったと自負しております。

ジャスダック上場から 1周年を迎えて

人材面で顕著に表れた上場効果。 「内部統制」対応も順調に進む。

2007年3月の上場にあたっては投資家の皆様からきわめて高い評価をいただき、以降、おかげさまで業績も拡大傾向で順調に推移してまいりました。

資金面や信用面など上場による恩恵はさまざまですが、当社にとってとりわけ大きかったのが人材採用面でした。先日の求人募集でも理系を中心に例年にないほど多くの優秀な学生の方々にご応募いただき、本社のある長野以外の地域からの応募も今年は急増しています。まず、

上場企業であるということは就職先選定の上で大きなファクターとなるようで、特に当社の成長性に高い関心を示す学生の方が多かったようです。

ご承知の通り、当社は他にはない新技術で市場を開拓・牽引していく研究開発型企業であり、優れた人材の確保は常に至上命題ともいえるきわめて重要なテーマです。研究開発を担う技術者の数は全社員の約3割に上り、その能力は当社の競争力に直結する大きなビジネスファクターとなります。こうした点だけを鑑みましても、当社にとってジャスダック上場はさらなる飛躍へ向けた、未来への大きなメルクマールとなったといえるでしょう。

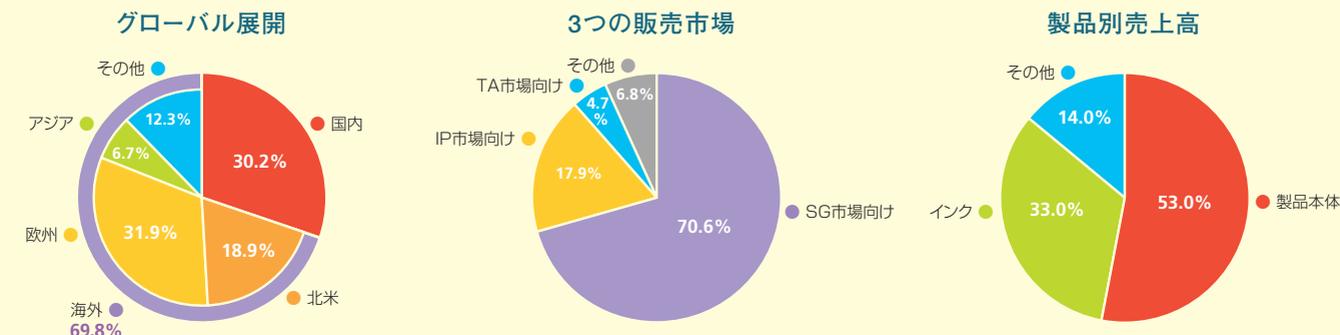
とはいえ一方で、上場した企業には情報開示をはじめ、さまざまな義務や社会的責任が課せられます。その象徴的な取り組みとして、本年度（第34期）から導入が始まった「内部統制」があります。

当社では、上場の準備段階として社内

ルール整備などに取り組むなかで、結果的に、法令順守や財務報告の信頼性確保、業務の効率化などを目的とするこの新制度への対応も少しずつ前へ進めることができました。なかでも厳しい監査の対象となる「会計システム」については、以前より大企業向けの厳格なERPを導入しており、ほぼ対応済みの状態となっております。

思えば、念願の上場を果たした翌年からというタイミングで、コーポレートガバナンスやリスクマネジメントに深く関わる新制度がスタートするのは、上場に向け着々と社内体制を整備してきた当社にとっては、むしろ好都合だったといえます。組織が膨れ上がって、ゼロから全社レベルで体制を再構築するのは大変な労力となるはずですが、まさに新たなスタートを切ったばかりの当社は、企業を取り巻く新しい潮流にもスムーズに乗っていきけると思います。

Point ポイント ミマキエンジニアリングの市場シェア 連結売上高(2008年3月期) 282億円



「オンデマンド生産」の可能性

インクジェット技術が可能にする地球にやさしい合理的なシステム。

消費者ニーズの多様化や、あらゆる分野で急激に進むデジタル化を背景に、さまざまな業界・業種で「オンデマンド生産」が注目を集めています。当社がリードするインクジェット印刷は「版」を作らずに直接対象に印刷する方式ですが、これは、オンデマンド生産における“多品種・小ロット印刷”にうってつけの技術といえるでしょう。

余剰在庫が生じず、必要なものを必要なだけ作るオンデマンド生産は、原材料のムダ使いを削減するという点でエコロジカルなシステムです。さらに「印刷」という観点では、例えばデザインを海外で行い、そのデータを送信して国内で印刷するという

オペレーションも可能となります。つまり、モノを動かす必要がなくなるため、輸送にかかる時間・コスト・エネルギーをカットできるわけです。

また、インクジェットプリンタは他の印刷方式と比べて印刷に使うインク量が少なくて済むという特徴があり、さらに、インク自体も植物などを原料とする生分解性に優れた有機系インクなどを使用すれば、環境負荷をより軽減することができます。当社が今後さらに注力していくインクジェット技術によるオンデマンド生産は、環境保全という観点からも非常に有望なビジネスモデルとなるはずで

す。携帯電話の着せ替えパネルやTシャツプリントなど、すでにさまざまな分野で活用されているオンデマンド生産ですが、今後は、例えば患者さん一人ひとりの処方ごとにクスリ瓶のフタにその内容を印刷したりすることも考えられます。また、クレジットカード類はこれまで印刷に熱転写方式を使っていましたが、最近では熱に弱いICチップの付いたカードも増えており、その点、熱を使わないインクジェット印刷は有効です。加えて、リボン転写方式では印刷に使うリボンにカードの個人データが残ってしまいましたが、インクジェットならコンピュータ上以外にデータは残らず、個人情報保護の観点からも優位といえます。

このように、インクジェット技術を使ったオンデマンド生産は、これからさらに幅広い領域に広がっていくことでしょう。

第34期の取り組みと抱負

競争力のある新製品を投入しグローバル展開をさらに推進。

さらなる成長を目指す第34期は、3つの市場それぞれで積極的なアプローチを展開し、当社の技術力を広く市場にアピールしていきたいと考えています。

まず、第1の柱であるSG市場向けでは、UV硬化インクをLEDで照射・凝固させるプリンタを開発・市場投入する予定です。従来のメタルハライドランプと違いほとんど熱を出さず、点消灯も容易で寿命も圧倒的に長いLEDの特性を利用した、環境にやさしい印刷、熱に弱い素材への印刷などで差別化を図っていきます。また、地域的にもさらにグローバル展開を進めながら成長を確保していく考えです。

また、第2の柱であるIP市場向けでは現在の好調を維持しながら、従来比で約10倍の印刷スピードを備えた高速プリンタや、平面だけでなく立体物にも印刷可能なプリンタなどを、展示会で市場提案していきます。印刷スピードの向上によって、インク需要拡大も期待されることとす。さらに、TA市場向けについては当下期に中量生産向けのプリンタを市場投入するなどして一層の売上アップを目指します。

地域的には、今年度中に成長著しい中国市場でビジネスの見通しが立てられるよう粛々と準備を整えていきたいと思っています。

中国はまさにこれからの市場です。そのニーズは、日本や欧米など成熟した市場のそれとはおのずと異なり、何よりも求められるのはコストパフォーマンスです。そのような発展段階にある市場に、価格よりも性能を重視した製品を投入してもまず勝算はないでしょう。我々はまず、個々の市場の特性を見極めて、投入する製品を企画・開発しなければなりません。

例えば日本や欧米など成熟したマーケットには、先進的な機能や優れた性能、技術力で差別化を図れるハイクオリティ・ハイパフォーマンスな製品を、対して、中国などの新興市場には価格競争力に優れた必要十分な性能の製品を投入するのが、ひとつのセオリーとなります。

こうした点を勘案しながら、展示会などを通じて市場を確認し、中国市場のニーズに

マッチした価格・性能バランスの製品規格を練り上げていきたいと考えています。

新たな目標へ向けて

あらゆる領域で品質向上を追求。目指す“売上1000億円企業”へ。

第33期、当社は「守りを固める」というスローガンを掲げ、開発部門、生産部門、営業部門、管理部門それぞれで体質強化に努めてまいりました。確かな成果を挙げたところ、満足のいく結果が出せなかったところと、その達成度はまちまちでしたが、それぞれの部門の懸命な取り組みが当期の成長に繋がったと考えております。

そして、さらなる飛躍に向けて積極果敢にチャレンジする当社の第34期のスローガンは、「品質を高める」。これは何も製品

だけに限った話ではなく、市場対応力や経営の質、サポートサービスといったあらゆるビジネスの領域でクオリティアップを追求していく、という私どもの決意表明です。

念願の株式公開を果たした今、私どもの中長期的な目標は「売上1000億円企業」。3つの市場において十分な研究開発費を確保しながら、世界を舞台に活躍できる適正規模のエクセレントカンパニーとなるために、これからも「新しさと違い」を創造する開発型企業としてさまざまな経営努力を重ねつつ、あらゆる課題に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今度ともより一層のご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

Column コラム インクジェット技術とは

私どもミキマエンジニアリングが大きな飛躍を遂げる契機となったのが、2002年に開発した看板専用インクジェットプリンタ「JV3-130S/160S」のヒットでした。それまで紙の印刷に使われていた非接触の「インクジェット方式」は、ドラムや版が不要で印刷面のサイズ制限がなく、多品種・小ロットの「オンデマンド生産」にも最適ことから、TA市場用、IP市場用にもその用途が広がっています。インクなどサプライ品のアフターマーケットで事業展開のシナジーも期待できますし、さらに、立体物の造形やマスクングなどにも応用できるでしょう。当社の歴史を変えたインクジェットは、もはや「印刷」という枠組みをも飛び越える、大きな可能性を秘めた技術なのです。



ボタンやパネルなどの立体成形加工物にも、直接プリントできます。



Topics 1

年間を通じた積極的な販促活動を展開

JAPAN SHOP 2008(第28回店舗総合見本市)に出展

JAPAN SHOPはSIGN & DISPLAY SHOWと並ぶ広告看板業界の2大イベントで、当社も当展示会でサインディスプレイに役立つ各種の提案を行いました。最速機のJV5シリーズ向けには、溶剤の臭気を低減しつつ画質も向上させた新溶剤HS1インクを紹介し、お客様の反応も良好でした。また重量メディアを安定して送れるJV5-130S/160S用のAMFや大型JV5-320S用の昇華転写インクなどの新製品も、当社の新技術として注目されました。この他には主力のJV33シリーズ向けに白色濃度を向上させた白インクを出展いたしました。今後、店舗のショーウィンドーなどで白インクを使った斬新なデザインのディスプレイを可能にするなどの新たな用途開拓が見込まれそうです。



JV5昇華転写インク発売記念キャンペーン

JV5は発売以来、短納期対応や仕事の効率化を図る高速・高画質のハイグレードマシンとして、大変ご好評を頂いてまいりました。今回、お客様からご要望が高かった「昇華転写インク」「水性顔料インク」の搭載を機に展開した発売記念キャンペーンには、多くのお客様からの応募をいただきました。

Event Schedule 07-08

Apr 2007

- 4/4 ● Mimaki体感フェアさいたま
- 4/4 ● 第8回コンバーティング機材・特殊印刷展
- 4/12 ● Mimaki体感フェア千葉

May 2007

- 5/1 ● Mimaki体感フェア福岡
- 5/16 ● Mimaki体感フェアさいたま
- 5/21 ● Mimaki体感フェア名古屋
- 5/21 ● Mimaki郡山展示会
- 5/21 ● プラテックス大阪2007出展

Jun 2007

- 6/07 ● 新製品全国縦断展示会開催
- 6/11 ● SignExpo2007出展
- 6/29 ● JV33縦断展示会開催(静岡、岐阜、三重、名古屋)

Jul 2007

- 7/3 ● 2007九州印刷機材展
- 7/4 ● 第2回軟包装キャリア塾
- 7/9 ● JV33縦断展示会in岡山
- 7/26 ● JV33縦断展示会in奈良
- 7/26 ● Mimaki姫路ミニ展示会
- 7/26 ● 「JV33シリーズ」ミニ展in和歌山

Aug 2007

- 8/6 ● 新製品「JV33シリーズ」展示会
- 8/17 ● SIGN & DISPLAY SHOW 2007出展
- 8/29 ● 「JV33シリーズ」展示会in奈良県大和高田

Sep 2007

- 9/5 ● 第2回九州サイン&デザイン・ディスプレイショー出展
- 9/11 ● IGAS 2007出展
- 9/20 ● 新製品「JV33シリーズ」縦断展示会in和歌山県 田辺・新宮

Nov 2007

- 11/1 ● ミマキサインフェア大阪
- 11/1 ● ミマキ福岡ソリューションフェア2007
- 11/22 ● 特別セミナーin神奈川
- 11/26 ● 第26回サインショップ・ディスプレイショーナゴヤ出展

Jan 2008

- 1/24 ● PAGE2008出展

Feb 2008

- 2/1 ● JV5昇華転写内覧会in名古屋
- 2/13 ● 神奈川県横断 JV33体感フェアin相模原・小田原・横浜
- 2/20 ● JAPAN SHOP 2008 出展

● ミニ展 ● 展示会

Topics 2

御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司 新たな販売市場へ

中華人民共和国浙江省平湖市に7番目の子会社となる御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司を設立いたしました。急成長を遂げる中国での製造・販売子会社の設立により、必要十分な品質を備えたローコスト製品の供給の実現を図ってまいります。ワールドワイド市場への柔軟な製品対応力、新興国マーケットも含めた、より一層のグローバル展開を推し進めてまいります。

Topics 3

環境にやさしいUV硬化インクの御紹介

UV光(紫外線)を照射することにより、重合反応を起こして硬化、定着するインクです。揮発性有機化合物(VOC)を含まないため環境にやさしく、さらに瞬時にインクが硬化して定着するため、今までのインクジェットでは印刷できなかったプラスチック(PET・ポリカーボネート)等の非吸収性素材への印刷を可能にします。当社は、環境規制が強化される時代の要請に適應できる、この環境対応型インクを用いたプリント技術で「オンデマンド生産」の可能性をさらに広げてまいります。

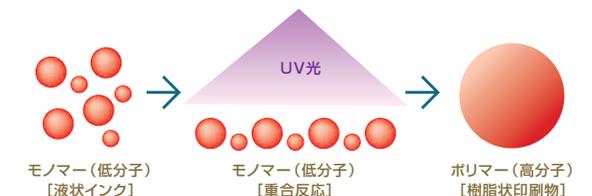
UV(紫外線)硬化インクの特徴とは? 重合反応により非吸収性素材へ定着します

インクを構成している液状のモノマー(低分子)が、UV光を受けることにより、結合してポリマー(高分子)に変化します。ポリマー(高分子)樹脂の被膜が、基材の表面に印刷画像を形成するので非吸収性素材への直接プリントが可能です。

● 子会社の概要

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| (1) 商号 | 御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司 |
| (2) 所在地 | 中華人民共和国 浙江省平湖市経済開発区興平一路西側 宏建路北側 |
| (3) 代表者 | 董事長 池田 明 |
| (4) 資本金 | 4億円 |
| (5) 設立 | 2007年12月 |
| (6) 操業開始 | 2008年2月 |
| (7) 出資比率 | 当社100%出資 |
| (8) 事業内容 | インクジェットプリンタ、カッティングプロッタ、インクの開発・製造及び販売 |

● UV硬化インクの応用メリット



04 Business Overview

営業概況

● 営業の概況と次期の見通し

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油などの資源価格の高騰等があったものの、好調な企業業績を背景に底堅く推移いたしました。後半には米国に端を発したサブプライムローン問題の影響や、円高、株安傾向による先行不透明感が色濃くなってまいりました。また、海外においては、欧州地域や新興国を中心に持続的な成長が見られましたが、米国ではサブプライムローン問題を中心に景気後退の懸念が強く低調な推移となりました。このような状況の中、当社グループはお客様のオンデマンド・ビジネスをサポートするための施策を積極的に展開してまいりました。SG(サイングラフィックス)市場向けには、主力製品JV3シリーズの後継機JV33-130/160及び国内最大級3.2m幅の大型インクジェットプリンタJV5-320Sの発売を開始し、IP(インダストリアルプロダクト)市場向けには、プラスチックや金属板等硬質素材に直接プリント可能な大型UV硬化型インクジェットプリンタJF-1631の拡販に努め、TA(テキスタイルアパレル)市場向けには、国内における販売体制の見直しを図りました。

この他、台湾御牧股份有限公司での一部インク組立の開始や当社加沢工場増築の着手に加え、2007年12月には御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司を中華人民共和国に設立いたしました。

その結果、当連結会計年度における売上高は282億35百万円(前連結会計年度比21.0%増)、営業利益は19億59百万円(同69.1%増)、経常利益は17億10百万円(同31.0%増)、当期純利益は9億84百万円(同27.7%増)となりました。

なお、次期の見通しにつきましては、今後も原油価格の高騰やサブプライムローン問題による先行不透明感が続くものと推測されますが、多品種少量生産・納期短縮等のためのオンデマンド生産において、インクジェットプリンタによるデジタル化の活用は引き続き拡大していくものと考えられます。

このような状況のもと、当社グループは、これまでの経験を活かして高画質・高速度等の品質を高め、市場ニーズにマッチした製品とその活用の提案を行うことによりさらなる成長が望めるものと考えております。

連結		第30期 2005	第31期 2006	第32期 2007	第33期 2008
業績ハイライト	売上高 (百万円)	16,643	19,147	23,337	28,235
	経常利益 (百万円)	1,025	785	1,305	1,710
	当期純利益 (百万円)	709	377	771	984
経営指標	1株当たり純資産 (円)	170,958	194,661	282,353	351,407
	1株当たり当期純利益 (円)	44,655	22,469	45,637	46,753
	自己資本比率 (%)	18.6	20.2	26.9	34.2
	自己資本利益率 (%)	29.3	12.3	17.0	14.1

将来に関する記述についての注意事項

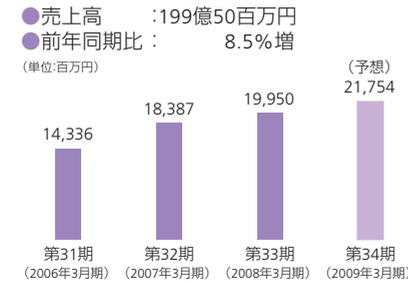
本書に記載されている業績予想および客観的事実以外の記述に関しましては、当社が現在入手している情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。当社の事業を取り巻く環境の変化等により、実際の業績等は異なる可能性があることにご留意ください。

05 Financial Highlight

財務ハイライト

● 対象市場別概況 07-08

SG(サイングラフィックス)市場

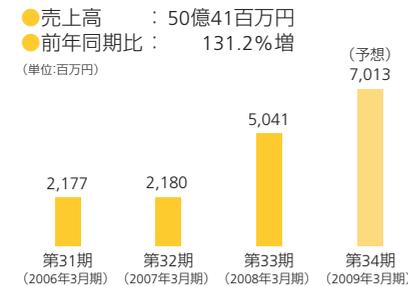


当市場向け製品は、広告・看板等のサイングラフィックス市場向けの機種群であります。当期は、2007年8月より発売を開始した、JV3シリーズの後継機JV33-130/160及び国内最大級3.2m幅の大型インクジェットプリンタJV5-320Sの新製品については、積極的な販売活動を展開した結果、順調に販売台数を伸ばしました。その他現行機種の販売台数も概ね順当に推移し、特にJV3シリーズの販売は、後継機のJV33シリーズの発売まで底堅く推移いたしました。その結果、売上高は199億50百万円(前連結会計年度比8.5%増)となりました。



JV33 Series
JV33-130 / JV33-160

IP(インダストリアルプロダクト)市場

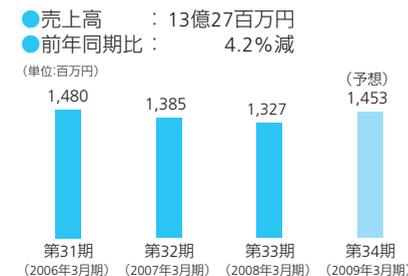


当市場向け製品は、工業製品の製造現場等のインダストリアルプロダクト市場向けの機種群であります。当期は、様々な業界に向け多品種少量生産・納期短縮・コスト削減・クイックレスポンスの課題解決策として、当社製品によるデジタル化の提案に注力した結果、2006年12月から出荷を開始したプラスチックや金属板等硬質素材に直接プリント可能な大型UV硬化型インクジェットプリンタJF-1631及び2007年1月に発売を開始したUJF-605C IIを中心に販売台数を伸ばしました。その結果、売上高は、50億41百万円(前連結会計年度比131.2%増)となりました。



JF-1631

TA(テキスタイルアパレル)市場



当市場向け製品は、裁断・縫製加工前の生地(テキスタイル)、Tシャツ等の既製服(アパレル)等の市場向け機種群であります。当期は、特段の新製品がなかったため、引き続き現行機種の販売が中心となりましたが、当連結会計年度より一部製品の国内販売を連結子会社の(株)グラフィッククリエーションにて開始し、販売体制の強化を図っております。その結果、売上高は13億27百万円(前連結会計年度比4.2%減)となりました。



Textile Jet
TCR1600

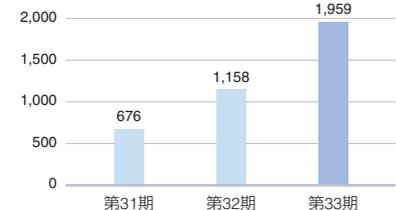
売上高

単位:百万円



営業利益

単位:百万円



経常利益

単位:百万円



当期純利益

単位:百万円



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2007年3月31日現在	2008年3月31日現在
資産の部		
流動資産	15,876	16,912
固定資産	5,894	6,939
有形固定資産	4,882	5,744
無形固定資産	299	331
投資その他の資産	712	862
資産合計	21,770	23,851
負債の部		
流動負債	14,463	14,574
固定負債	1,462	973
負債合計	15,926	15,548
純資産の部		
株主資本	5,739	8,201
資本金	1,219	2,015
資本剰余金	1,107	1,903
利益剰余金	3,412	4,283
評価・換算差額等	105	△ 49
新株予約権	—	150
純資産合計	5,844	8,303
負債純資産合計	21,770	23,851

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自2006年4月1日 至2007年3月31日	自2007年4月1日 至2008年3月31日
売上高	23,337	28,235
売上原価	13,402	15,186
売上総利益	9,935	13,048
販売費及び一般管理費	8,776	11,089
営業利益	1,158	1,959
営業外収益	289	86
営業外費用	143	335
経常利益	1,305	1,710
特別利益	9	24
特別損失	104	53
税金等調整前当期純利益	1,210	1,680
法人税、住民税及び事業税	563	723
過年度法人税等	126	15
法人税等調整額	△ 251	△ 42
当期純利益	771	984

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期
	自2007年4月1日 至2008年3月31日
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 710
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,691
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,033
④ 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 39
⑤ 現金及び現金同等物の増加額	△ 1,407
⑥ 現金及び現金同等物の期首残高	4,769
⑦ 現金及び現金同等物の期末残高	3,362

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



連結株主資本等変動計算書(要旨)

当期(自2007年4月1日至2008年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計			
2007年3月31日残高	1,219	1,107	3,412	5,739	105	—	5,844
連結会計年度中の変動額							
新株の発行	795	795		1,591			1,591
剰余金の配当			△ 113	△ 113			△ 113
当期純利益			984	984			984
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					△ 154	150	△ 3
連結会計年度中の変動額合計	795	795	870	2,462	△ 154	150	2,458
2008年3月31日残高	2,015	1,903	4,283	8,201	△ 49	150	8,303

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

07 Company Profile

会社概要

M 会社の概況 (2008年3月31日現在)

商号 株式会社ミマキエンジニアリング
 設立 1975年8月
 資本金 20億1,516万円
 本社・工場 長野県東御市滋野乙2182-3
 0268(64)2281(代表)
 従業員 連結674名/単体500名
 事業内容 コンピュータ周辺機器および
 ソフトウェアの開発・製造・販売
 取引銀行 (株)八十二銀行・(株)三菱東京UFJ銀行
 (株)三井住友銀行・(株)みずほ銀行

M グループネットワーク

● 関連会社案内



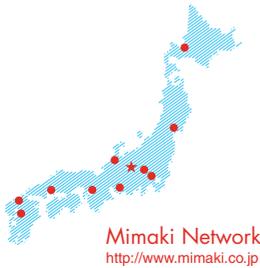
MIMAKI USA, INC.
 150 Satellite Boulevard, suite A,
 Suwanee, GA 30024
<http://www.mimakiusa.com>

MIMAKI EUROPE B.V.
 Joan Muyskenweg 42-44,
 1099CK Amsterdam
<http://www.mimakieurope.com>

株式会社グラフィッククリエーション
 〒107-0052
 東京都港区赤坂1-5-12第二虎ノ門ビル
<http://www.graphic-creation.com>

御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司
 浙江省平湖市経済開発区興平一路
 西側宏建路北側

● 事業所案内



★ **本社・牧家工場** 〒389-0512 長野県東御市滋野乙2182-3
加沢工場 〒389-0514 長野県東御市加沢1333-3
長野開発センター 〒380-0803 長野県長野市三輪1-8-14
東京支社 〒141-0001 東京都品川区北品川15-9-41
 TKB御殿山ビル
大阪支店 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-13-41
 NF江坂ビル
札幌営業所 〒060-0032 北海道札幌市中央区北2条東1-5-2
 サニープリンス1F
仙台営業所 〒984-0825 宮城県仙台市若林区古城3-10-7

M 役員 (2008年6月26日現在)

代表取締役社長 池田 明
 代表取締役副社長 野口 幹夫
 専務取締役 藤田 正秋
 専務取締役 小林 久之
 常務取締役 佐金 榮
 取締役 大西 勝
 取締役 今田 新太郎
 取締役相談役 田中 規幸
 常勤監査役 今井 征芳
 監査役 岩下 智和
 監査役 土屋 幸夫

台湾御牧股份有限公司
 台中縣潭子鄉中山路3段37號

株式会社ミマキプレジジョン
 〒389-0512
 長野県東御市滋野乙2182-3
<http://www.mimakiprecision.co.jp>

株式会社ウィズテック
 〒192-0903
 東京都八王子市万町1-3
<http://www.wiztec.co.jp/>

08 Stock Information

株式情報

M 株主メロ

事業年度 4月1日から3月31日まで
 定時株主総会 毎事業年度終了後3ヶ月以内
 基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して
 定めた日

単元株式数 単元株制度無し
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081

同連絡先 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL 0120-232-711(通話料無料)
 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 公告方法 当社ホームページ(<http://www.mimaki.co.jp>)に
 掲載いたします。ただし、電子公告によることが
 できないやむを得ない事由が生じた場合は、日本
 経済新聞に掲載いたします。
 上場金融商品取引所 ジャスダック証券取引所
 証券コード 6638

株券電子化についてのお知らせ

2009年1月からの実施を目標として、株券電子化の準備が進められて
 います。株券電子化が実施されると、株主の権利は電子的に証券会社等
 の各金融機関の口座で管理されることになり、現在お持ちの株券は無効
 になります。株券をお手元にお持ちの場合は、必ずご確認されることを
 お願いいたします。

株券電子化に関するお問い合わせ先
 日本証券業協会 証券決済制度改革推進センター
 (証券受渡・決済制度改革懇談会事務局)

TEL 03-3667-4500 (平日9:00~17:00)
 URL <http://www.kessaicenter.com/>

M 株式の状況 (2008年3月31日現在)

発行可能株式総数 66,800株
 (注)2008年4月1日をもって当社定款を変更し、66,800株から200,400株となっております。

発行済株式の総数 23,200株
 (注)2008年1月11日開催の取締役会の決議に基づき、2008年3月31日現在の株主様に対し、
 2008年4月1日付でその所有株式1株につき3株の割合をもって分割したため46,400株増
 加し、69,600株となっております。

株主数 2,434名
 大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社池田ホールディングス	3,500	15.09
田中 規幸	2,065	8.90
有限会社田中企画	2,000	8.62
ミマキエンジニアリング従業員持株会	1,928	8.31
東京中小企業投資育成株式会社	1,270	5.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,221	5.26
株式会社八十二銀行	700	3.02
エプソンアヴァシス株式会社	600	2.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	563	2.43
池田 明	541	2.33

株式の分布状況

